

学

一年
画数 8
筆順 ガク
まなひぶ

成の立ち



もとの字は「學」でした。「字」は、「まわりのものがみえないじょうたいの子」をあらわしたものです。「子」は「りよう手」のかたちをあらわしたものです。「ま」は「まじわる」ことをあらわしたしるしです。

「子どもがせんせいとまじわる」ことにより、まわりのものがみえなかつたのがみえるようになること（かしくくなること）をあらわした字です。「子どもがまなぶ」こと」をあらわした字です。

使い方

▽いちばんよい学びかたというのは、すこしずつでも、まいにちまいにちやることです。いちどにたくさんやっても、いちにちやふつかでは、なんにもなりません。わかいうちに、いろいろなことを学んでおくことがたいへんたいせつです。

▽学芸会で、みんなであうたをうたいました。

熟語例

- ▽学芸会（学校で、せいとたちがおこなう、げきやうたなどのほつびよう会）
- ▽学生（学校でべんきようしているひと。とくに大学生のことをいいます。）
- ▽学者（学問をせんもんにしているひと）
- ▽学問（いろいろなちきをまとめたもの。科学や哲学など、いろいろな学問があります。）
- ▽学習（学び習うこと。べんきようすること。）
- ▽無学（学問がないうこと。ものをしらないこと。）
- ▽好學（学問が好きなおこと。学問が好きで、いっしょうけんめいべんきようするひとのことを「好學の士」といいます。）

気

一年
画数 6
筆順 キ・ケ
キ・ケ

成の立ち



蒸気がたちのぼるかたちをあらわした「气」と「米」とをくみあわせてつくった字です。「米を蒸すときにでる「蒸気」をあらわした字です。

蒸気は、ふつうはめにみえませんが、みえないけれどつよいちからがありますので、「めにみえないちから」「すぐれたはたらき」といういみにつかわれます。【例】電気。

また、「めにみえないものうごき」「ようす」のいみにつかわれます。【例】天気。

さらに、「めにみえないところのはたらき」「ところのようす」のいみにもつかわれます。【例】気持ち（ところのようす）。【注意】気地。

使い方

▽てつびんのふたが音をたてているのは、蒸気のせいであることに気がつきました。

▽このごろの天気にあきの気配をかんじます。

熟語例

- ▽気体（すべてのものを三つにぶんるした、その一つ。空気のようなもの、といういみのことば。きまつたかたち、ようせきをもたないものをいいます。）
- ▽空気（空間をみだしている、めにみえないがはたらきのある「さんそ」や「ちつそ」や「蒸気」などのそうしよう）
- ▽天気（天のうごき、ようす。そらもよう）
- ▽気配（ようす。はつきりそれとわからないけれどもなんとなくかんじられるようす）
- ▽気力（こころのちから。せいしん力。元気の力）
- ▽元氣（はたらきの元になる気力にみちている、といういみにつかわれます。）
- ▽気品（なんとなくかんじられる品位、といういみのことばですが、「品位がたかい」「上品」のいみにつかわれます。「品性が「気だかい」こと。）